

「アブラハムの執り成し」

2021年01月08日

そして主は言われた。「ソドムとゴモラの叫びは実に大きく、その罪は極めて重い。」(創世記 18 章 20 節) 彼は言った。「わが主よ、もう一度だけ申し上げても、どうかお怒りになりませんように。もしかすると、そこに十人しかいないかもしれません。」すると主は答えられた。「その十人のために、私は滅ぼしはしない。」(創世記 18 章 32 節)

アブラハムとサラにイサク誕生を予告された旅人たちはそこを旅立ち、ソドムの方面を見下ろした。アブラハムは彼らを見送るために一緒に出かけて行った。この時、旅人の姿をとった神は心の内にあることを言われた。アブラハムは大いなる強い国民となり、地上の全ての国民は彼によって祝福される。神がアブラハムを選んだのは、彼が子らとその後続く家族の者たちに命じて、正義と公正を行い、主の道を守らせるためであり、彼に約束したことを成就するためである。そうならば、神がこれから行おうとすることを隠しておいてよいだろうか、と。そして、神はアブラハムに、「ソドムとゴモラの叫びは実に大きく、その罪は極めて重い。さあ、私は降って行って、私に届いた叫びのとおり、彼らが確かに行っているのかどうか見て確かめよう」と告げた。甥のロトが選び取って住みついたソドムはエデンの園のように潤っていたが、住民たちは邪悪で、罪深い町であるかをアブラハムは知っていた。神は、このソドムに裁きを与え、滅ぼされるのだと悟った。

「その人たちはそこからソドムの方へ向って行った。しかしアブラハムはなお主の前に立っていた。」二人の天使はソドムに向かったが、神はアブラハムの前におられた。アブラハムはソドムを執り成そうと必死の祈りをする。彼は進み出て、「あなたは本当に、正しい者を悪い者と共に滅ぼされるのですか。もしかすると、あの町の中には正しい人が五十人いるかもしれません。その中に五十人の正しい人がいても、その町を赦さず、本当に滅ぼされるのでしょうか。正しい者を悪い者と共に殺し、正しい者と悪い者が同じような目に遭うなどということは、決してありえません。全地を裁かれる方が公正な裁きを行わないことなど、決してありえません。」アブラハムは、正と悪が共に裁かれるのなら、神の公正に反するのではありませんかと、ソドムを裁かないように訴えている。神は彼に、「もし、ソドムの町の中に五十人の正しい者がいるなら、その者のために、その町全体を赦すことにしよう」と答えられた。アブラハムは、「塵や灰にすぎない私ですが、あえてわが主に申し上げます」と言い、50人に5人足りないかもしれない、それでも町を滅ぼされますかと問うと、神は45人いれば、滅ぼさないと答えられた。アブラハムは、もしかすると40人しかいないかもしれませんと言うと、神は40人のために滅ぼさないと答えられた。アブラハムは「わが主よ、こう申し上げてもどうかお怒りになりませんように」と言い、30人しかいないかも、そして「あえてわが主に申し上げます」と言い、20人しかいないかも、更に「わが主よ、もう一度だけ申し上げても、どうかお怒りになりませんように」と言い、10人しかいないかもしれないと訴えた。神は、「その十人のために、私は滅ぼさないと答えられた。アブラハムは50人から始まり45、40、30、20、10人と正しい人のいることを信じ執り成してきたが、正しい者は一人もいないことに気付く、執り成しを断念せざるを得なかった。このアブラハムの必死の執り成しから、正しい唯一一人の人、主イエスの十字架の死によって、神は全ての人を赦された福音が鮮やかに見えてくる。執り成しできないアブラハムに代わって、主イエスが私たちの邪悪と罪を執り成してくださったのである。